

再生・活性化を果たした商店街事例 №26

高槻センター街商店街振興組合、城北通事業協同組合(大阪府高槻市)

【取組の方向】交通の要衝にある2つの商店街の取り組みによるシナジー効果でさらなる賑わいが発生

地域住民や大学、百貨店を巻き込んだ取り組みで賑わい溢れる街に！ 店舗数・高槻センター街商店街振興組合：108、城北通事業協同組合：38

○商店街の置かれた状況

・JR高槻駅と阪急高槻市駅に近接し、恵まれた立地環境。
(高槻センター街)地元の店が減るなど、商店街の個性が薄れ、魅力低下による来街者減少の危機感。
(城北通り)空き店舗の増加、通行量の減少で、閑散とした商店街に。

○対応策

・安全・安心に配慮した地域環境の維持と商店街にとってマイナスとなる業種の出店規制。
(高槻センター街)地元大学(関西大学)との連携による不法駐輪の排除や防災への取り組み
(城北通り)①高槻ジャズストリート(平成11年):飲食店が多い強みを生かし、有名なジャズミュージシャンを呼んで毎年5月開催
②来街者が夜遅くまで安心して歩ける商店街の実現(防犯カメラ設置)

○状況変化

(高槻センター街)事業への取り組みを通して、地域住民や行政、大型店、地元大学等、様々な団体との連携が深まってきた。
(城北通り)①「高槻ジャズストリート」の成功で、当商店街の若手を中心に意識改革
②周辺の商店街も巻き込み、地域全体のイベントに発展

○具体的取組

(高槻センター街)(1)近隣百貨店との共同販促 ①プレミアム商品券「ごつつ得やで！ ナイス街(がい)商品券」、②共同チラシの発行:商店街と百貨店の各店舗の紹介をテーマやジャンルに絞って掲載
(2)高槻アート博覧会:アーケードに地域の子供達の描いた絵を拡大してぶら下げる
(城北通り)(1)「高槻ジャズストリート」のエリアを中心商店街全域に広げ、恒例の人気イベントに(今年17回目)
(2)「食の文化祭」:秋にも高槻ジャズストリートのような活況を実現させたいとの思いから開催する食と音楽のイベント(今年8回目)

○具体的成果

・両商店街の相乗効果の発揮
(高槻センター街)地域住民や行政、大型店、地元大学、金融機関等、様々な団体との連携から、地域に密着した商店街として認知され、愛されている。
(通行量:2万人/日)
(城北通り)「高槻ジャズストリート」は、今では全国的に有名な音楽イベントに成長。また、「食の文化祭」も合わせた両イベントで、毎年の来街者13万人。

【地方自治体の取組】

(高槻センター街)大阪府「オンリーワン商店街」(平成23年度)
(城北通り)「地域商店街活性化事業」(平成25年度)等での市の負担
(共通)市の熱心な人的サポート